

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	2022年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第2回建築系教育課程編成委員会
開 催 日 時	2022年11月25日(金)15時40分～17時00分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 2階 203会議室
参 加 者	<外部委員:4名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 稲村 健一(株式会社稲村デザイン建築研究所) 佐藤 剛 (一級建築士事務所 A-SA 工房) 荻野 敦 (清水建設株式会社) 山本 治 (西松建設株式会社) <内部委員:4名> 杉本 安雄(専門学校東京テクニカルカレッジ 建築監督科科长) 野上 和裕 (同 建築科科长、議長) 鈴木 昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科长) 山下 光成 (同 建築監督科教員、書記)
	<系別分科会>(第二部) 1.議長挨拶 2.前回(系別分科会)議事録の確認 3.意見交換
討 議 内 容	■建築監督科 分科会 参加者 <外部委員> 稲村 健一(株式会社稲村デザイン建築研究所) 佐藤 剛 (一級建築士事務所 A-SA 工房) 荻野 敦 (清水建設株式会社) 山本 治 (西松建設株式会社) <内部委員> 杉本 安雄(専門学校東京テクニカルカレッジ 建築監督科科长) 野上 和裕 (同 建築科科长、議長) 鈴木 昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科长) 山下 光成 (同 建築監督科教員、書記) 【野上】 新しい学びについての提案「2つの専門性を学ぶこと」「応用開発を行う学びの場」のそれぞれの有効性について、議論していきたい。 【野上】 10月26日(水)に実施した「専門人材未来会議」で用いた資料について、建築科に関する事項を説明 ①そもそもBIMとは ②3D-CADとBIMの違い ③代表的なBIMアプリ ④建築科の取り組み ⑤他校のBIMの取り組み ⑥ゼネコンでのBIMの現状と今後の展開 ⑦3Dプリンター住宅 【杉本】 10月26日(水)に実施した「専門人材未来会議」で用いた資料について、監督科に関する事項を説明 ①建設業24年問題の概要 ②建設DXと変わる建設現場 ③SDGs の観点から新しい潮流 【山本】 新卒採用の募集職種が「技術系」「事務系」「営業系」「開発系」の4つある中で、情報処理やプログラミングを主体とする学部学科の学生を募集していないのが現状である。

【山本】

DX推進に関する部署の人員は、建築や土木の施工管理に携わってきた中堅社員の中で、内勤業務を得意とする社員が異動配属となる場合が多い。

また、近年のDX推進に関する稼働や実績の状況については、特に大きな成果・功績といったものは、それほど多くないと認識している。

【山本】

DX推進による現場の省力省人化については、既成概念や固定概念にとらわれない発想が必要不可欠だと感じており、IT系の技術者ならではの視点や着想が今後必要になるのではないかと思います。

【荻野】

各工事プロジェクトの各フェーズにおいて、様々な書類作成が求められるが、同じ内容の基本情報や工事概要を入力する箇所が多く、現状は全て一つ一つを手入力している。そういった重複する情報を一元管理し、一括で入出力できるようにするために、情報系技術者を積極採用しているのが現状である。

【稲村】

大手設計事務所のBIM開発プロジェクトに携わる技術者は、建築とITスキルの両方を有する人材であることから、学生時代に2つのスキルを学ぶという事は、今後、更に重要になっていくものと思われる。

【山本】

ゼネコン各社が新卒施工管理職に求める最低限の条件は「建築図面を読み取る能力」と「基本的な専門用語が理解できる知識」を有していることであるため、現在の既存カリキュラムを削って、新しい内容を付加するというやり方だけでは、避けるべきである。

【鈴木】

新しい技術に対応した教育を行なっていく上で、今後の次世代技術者に求められるものとして、何が重要になっていくことが予想されるか伺いたい。

【稲村】

コンピューショナルデザインを用いた特殊な設計のプロジェクトを受注した場合でも、即時対応できるノウハウと技術力を開発しておくことが施工者として重要である。

【稲村】

現行の建築士制度では「設計」と「工事監理」の全く異なる職能を1つの枠組みの中で取り扱っている。「設計」はクリエイティブな仕事であるのに対し、「工事監理」は設計図書の通り施工されている事を確認する業務であり、その比率はおおよそ設計7割、工事監理3割である。そういった現状を踏まえて、今後は工事監理者を養成する学科をリカレント教育の観点から検討していく必要性があると感じている。

【稲村】

ドローンを活用する事で天井裏や床下などの状況を確認したり、現場の安全確認をするような場面が増加傾向にあることから、ドローンに関する教育についても検討が必要になるものと思われる。

【佐藤】

2年制の学科は、専門の知識とスキルを学ぶ時間が限られているため、専門分野以外の内容を既存のカリキュラムに落とし込むことは非常に難しいと思われる。専門分野以外の内容については導入事例の紹介や今後の展開などについて軽く触れる程度が適切である。

【佐藤】

建築とITを掛け合わせることばかりに着目しがちであるが、建築は環境・バイオ系の分野とも親和性が高いことを再認識する必要性があると感じている。

以 上

